

1982年 大会記録

国際

メドベジ国際大会 = フリースタイル (2月19~21日、ソ連・ミンスク)

48kg 級 石川真一 (国土大) = 7位、 52kg 級 佐藤満 (日体大) = 5位、 57kg 級 上野宏之 (群馬・館林高教) = 二失、 62kg 級 栄和人 (日体大) = 三失、五位塚悟 (大東大) = 7位

コンコード国際大会 = グレコローマン (5月29~30日、米国・コンコード)

48kg 級 佐々木文和 (島根県庁) = 4位、 52kg 級 浦本善朗 (滋賀県庁) = 4位、 57kg 級 手銭利蔵 (島根県庁) = 5位、 62kg 級 藤田勅 (自衛隊) = 二失、 68kg 級 松林栄 (島根県庁) 三失、中島則行 (日体大) = 四失、 74kg 級 池乗貞明 (島根県庁) = 6位、 82kg 級 森山泰年 (自衛隊) = 二失

世界選手権 = フリースタイル (8月11~14日、カナダ・エドモントン)

48kg 級 石川真一 (国土大) = 三失、 52kg 級 朝倉利夫 (鹿児島県体教) = 三失、 57kg 級 富山英明 (日大教) = 2位、 62kg 級 金子博 (群馬・西邑楽高教) = 四失、 68kg 級 上村政和 (日大) = 三失、 74kg 級 菊地隆 (和歌山県教委) = 4位、 82kg 級 太田章 (早大助) = 4位、 90kg 級 鈴木光 (ユナイテッドスティール) = 6位、 100kg 級 石森宏一 (大体大) = 二失、 100kg 級以上 松永清志 (和歌山県教委) = 二失

世界選手権 = グレコローマン (9月9~12日、ポーランド・カトピツェ)

48kg 級 斉藤育造 (専大) = 三失、 52kg 級 宮原厚次 (自衛隊) = 6位、 57kg 級 柏木究 (国土大助) = 三失、 62kg 級 長内清一 (三八教育事務所) = 四失、 68kg 級 南敏文 (滋賀県体教) = 二失、 74kg 級 向井孝博 (自衛隊) = 四失、 82kg 級 森山泰年 (自衛隊) = 四失、 90kg 級 = 派遣なし、 100kg 級 藤田芳弘 (和歌山・和歌山北高教) = 二失、 100kg 級以上 = 派遣なし

ワールドカップ = グレコローマン (11月26~28日、ハンガリー・ブダペスト)

4位 (3勝2敗)

1回戦 日本 [2 - 8] ハンガリー

2回戦 日本 [6 - 4] 米国

3回戦 日本 [2 - 8] ソ連

4回戦 日本 [6 - 4] 欧州選抜

5回戦 日本 [7 - 3] エジプト

《個人順位》 48kg 級 蝦名康一(自衛隊) = 5位、 52kg 級 宮原厚次(自衛隊) = 優勝、 57kg 級 江藤正基(自衛隊) = 優勝、 62kg 級 長内清一(三八教育事務所) = 2位、 68kg 級 山口勝之(和歌山県教委) = 4位、 74kg 級 谷一郎(群馬・太田工高教) = 4位、 82kg 級 森山泰年(自衛隊) = 4位、 90kg 級 今村民夫(自衛隊) = 6位、 100kg 級 藤田芳弘(和歌山・和歌山北高教) = 6位、 100kg 級以上 武田高広(専大) = 5位

アジア大会 = フリースタイル(11月28日~12月2日、インド・ニューデリー)

48kg 級 小林孝至(日大) = 優勝、 52kg 級 朝倉利夫(鹿児島県体教) = 優勝、 57kg 級 富山英明(日大教) = 優勝、 62kg 級 金子博(群馬・西邑楽高教) = 優勝、 68kg 級 上村政和(日大) = 2位、 74kg 級 菊地隆(和歌山県教委) = 二失、 82kg 級 茂木優(秋田・秋田商高教) = 5位、 90kg 級 太田章(早大助) = 3位、 100kg 級 鈴木光(ユニテッドスティーラ) = 4位、 100kg 級以上 松永清志(和歌山県教委) = 5位

フリースタイルのみ

ハバランダ国際大会 = グレコローマン(12月11~12日、スウェーデン・ハバランダ)

48kg 級 蝦名康一(自衛隊) = 5位、 52kg 級 宮原厚次(自衛隊) = 2位、 57kg 級 江藤正基(自衛隊) = 優勝、 三宅正徳(日体大) = 三失、 62kg 級 長内清一(三八教育事務所) = 5位、 大久保康裕(自衛隊) = 4位、 68kg 級 山口勝之(和歌山県教委) = 優勝、 中島則行(日体大) = 四失、 74kg 級 谷一郎(群馬・太田工高教) = 三失、 82kg 級 森山泰年(自衛隊) = 5位、 90kg 級 今村民夫(自衛隊) = 二失、 100kg 級 藤田芳弘(和歌山・和歌山北高教) = 5位、 100kg 級以上 武田高広(専大) = 4位

国内

全国高校選抜大会(4月2~3日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院高(2年連続3度目)、[2] 鹿児島・鹿児島商工、[3] 長崎・島原、千葉・八千代松陰

《個人戦優勝者》 48kg 級 山下浩(茨城・霞ヶ浦)、 52kg 級 下沢明夫(青森・光星学院)、 56kg 級 森下敏清(茨城・霞ヶ浦)、 60kg 級 斎藤新治(青森・光星)

学院)、 65kg 級 赤石光生(青森・光星学院)、 70kg 級 坂野下喜三(青森・光星学院)、 75kg 級 豎山保文(鹿児島・鹿児島商工)、 75kg 以上級 室家伸行(和歌山・和歌山北)

西日本学生春季新人戦 = フリースタイル(4月29日、大阪・桃山学院大)

《優勝者》 48kg 級 高田英樹(関大)、 52kg 級 田中智(関大)、 57kg 級 前田一彦(大体大)、 62kg 級 田中信悟(近大)、 68kg 級 糸川長武(同志社大)、 74kg 級 田中正昭(同志社大)、 82kg 級 川口豊隆(大体大)、 90kg 級 奥村広人(同志社大)

フリースタイルのみ

東日本学生リーグ戦(5月14~16・22日、東京・駒沢体育館)

《順位》[1]日体大(4年連続5度目)[2]日大

(A組)[1]日体大、[2]国士大、[3]中大、[4]東洋大、[5]法大、[6]拓大

(B組)[1]日大、[2]専大、[3]大東大、[4]明大、[5]東海大、[6]東農大

西日本学生選手権(5月28~30日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 豊田育男(福岡大)、 52kg 級 国広幸信(徳山大)、 57kg 級 秋山徳久(福岡大)、 62kg 級 小野憲一(近大)、 68kg 級 松浦雄二(福岡大)、 74kg 級 和泉憲明(徳山大)、 82kg 級 ピーター・ガターソン(カナダ)、 90kg 級 ブレイク・ダーモット(カナダ)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 田中一成(桃山学院大)、 52kg 級 国広幸信(徳山大)、 57kg 級 スコット・テート(カナダ)、 62kg 級 井手雅博(福岡大)、 68kg 級 田中正昭(同志社大)、 74kg 級 和泉憲明(徳山大)、 82kg 級 ピーター・ガターソン(カナダ)、 90kg 級 石森宏一(大体大)

全日本社会人選手権(5月29~30日、国士館大体育館)

《団体戦優勝チーム》 官公庁 自衛隊、 実業団 ユナイテッドスティール、 クラブ 和歌山クラブ

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 石川利明(栃ノ葉ク)、 52kg 級 細川晃二(クラリオン)、 57kg 級 鈴木康文(自衛隊)、 62kg 級 金子博(群馬県協会)、 68kg 級 多賀恒雄(国士大ク)、 74kg 級 南正昭(宮崎ク)、 82kg 級 小出日出夫(千

葉県協会)、 90kg 級 浅野修(千葉県協会)、 100kg 級 石川淳(自衛隊)、 100kg 以上級 山本邦寿(滋賀県体協)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 蝦名康一(自衛隊)、 52kg 級 福山雄二(自衛隊)、 57kg 級 宮原厚次(自衛隊)、 62kg 級 阿佐雄二(自衛隊)、 68kg 級 中島光正(群馬県協会)、 74kg 級 南敏文(滋賀県体育館)、 82kg 級 長島偉之(栃ノ葉ク)、 90kg 級 伊沢厚(警視庁)、 100kg 級 谷口聖平(木口道場)、 100kg 以上級 松永清志(和歌山ク)

東日本学生春季新人戦(6月18~20日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 小林孝至(日大)、 52kg 級 上島一敏(国士館大)、 57kg 級 田中雅之(東洋大)、 62kg 級 渡部裕一(日大)、 68kg 級 湯浅邦茂(日体大)、 74kg 級 安田紀久雄(日体大)、 82kg 級 水橋徹(国士館大)、 90kg 級 千葉裕司(早大)、 90kg 以上級 本田多聞(日大)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 小林孝至(日大)、 52kg 級 上島一敏(国士館大)、 57kg 級 田中雅之(東洋大)、 62kg 級 大町忠雄(国士館大)、 68kg 級 奥村拓生(国士館大)、 74kg 級 湯浅邦茂(日体大)、 82kg 級 水橋徹(国士館大)、 90kg 級 林久雄(法大)、 90kg 以上級 東政弘(日体大)

西日本学生春季リーグ戦(6月25~27日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1]福岡大(3季ぶり10度目)、[2]同志社大、[3]近大、[4]徳山大、[5]大体大、[6]名商大

全日本選手権(7月9~11日、群馬・城沼総合体育館)

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 石川真一(国士大)、 52kg 級 朝倉利夫(鹿児島県体教)、 57kg 級 富山英明(日大教)、 62kg 級 金子博(群馬・西邑楽高教)、 68kg 級 上村政和(日大)、 74kg 級 菊地隆(和歌山県教委)、 82kg 級 茂木優(秋田・秋田商高教)、 90kg 級 太田章(早大教)、 100kg 級 石川淳(自衛隊)、 100kg 級以上 松永清志(和歌山県教委)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 斉藤育造(専大)、 52kg 級 宮原厚次(自衛隊)、 57kg 級 柏木究(国士大助)、 62kg 級 長内清一(三八教育事務所)、 68kg 級 南敏文(滋賀県体教)、 74kg 級 向井孝博(自衛隊)、 82kg 級 森山泰年(自衛隊)、 90kg 級 保坂竹道(北日本通商)、 100kg 級 藤田芳弘(和歌山・和歌山北高教)、 100kg 級以上 三宅勝(専大)

インターハイ（8月3～6日、鹿児島・大口市総合体育館）

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院（3年ぶり3度目）、[2] 鹿児島・鹿児島商工、
[3] 福岡・築上西、群馬・館林

《個人戦優勝者》 48kg 級 山下浩（茨城・霞ヶ浦）、 52kg 級 下沢明夫（青森・光星学院）、 56kg 級 森下敏清（茨城・霞ヶ浦）、 60kg 級 斉藤新治（青森・光星学院）、 65kg 級 赤石光生（青森・光星学院）、 70kg 級 坂野下喜三（青森・光星学院）、 75kg 級 伊藤敦（北海道・岩見沢農）、 75kg 以上級 浅井功（兵庫・神戸西）

全日本学生選手権（8月26～29日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 小林孝至（日大）、 52kg 級 佐藤満（日体大）、
57kg 級 佐藤新（日体大）、 62kg 級 五位塚悟（大東大）、 68kg 級 上村政和（日大）、
74kg 級 岸本茂範（中大）、 82kg 級 西村公夫（専大）、 90kg 級 水橋徹（国土館大）、
100kg 級 本田多聞（日大）、 100kg 級以上 石森宏一（大体大）

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 小林孝至（日大）、 52kg 級 大川秀和（日体大）、
57kg 級 三宅正徳（日体大）、 62kg 級 栄和人（日体大）、 68kg 級 中島則行（日体大）、
74kg 級 樋口直己（日体大）、 82kg 級 東出徹（日体大）、 90kg 級 福辺雅彦（日体大）、
100kg 級 石森宏一（大体大）、 100kg 級以上 大川浩一（日大）

西日本学生新人戦（9月11～12日、大阪・桃山学院大）

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 木戸敬之（同志社大）、 52kg 級 吉峯征爾（桃山学院大）、
57kg 級 福川敦（桃山学院大）、 62kg 級 石川修（桃山学院大）、 68kg 級 窪田直人（同志社大）、
74kg 級 関口勉（関大）、 82kg 級 田中正昭（同志社大）、 90kg 級 川口豊隆（大体大）

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 木戸敬之（同志社大）、 52kg 級 吉峯征爾（桃山学院大）、
57kg 級 青木孝至（桃山学院大）、 62kg 級 石川修（桃山学院大）、 68kg 級 朝熊一夫（名商大）、
74kg 級 田中正昭（同志社大）、 82kg 級 船木剛（桃山学院大）、 90kg 級 奥村広人（同志社大）

全日本学生王座決定戦（9月24～25日、東京・駒沢体育館） = 決勝記録

日体大 [6 - 3] 日大

日体大は5年連続6度目の優勝

国体（10月3～6日、島根・川本高）

《成年フリースタイル優勝者》 48kg級 石川利明（栃木・足利工大付高教）、 52kg級 清水清人（宮崎・日南高教）、 57kg級 上野宏一（群馬・館林高教）、 62kg級 栄和人（鹿児島・日体大）、 68kg級 宮原章（秋田・松永製あん）、 74kg級 樋口直巳（三重・日体大）、 82kg級 茂木優（秋田・秋田商高教）、 90kg級 山本隆（島根・県立武道館）、 100kg級 森康哲（徳島・山瀬農協）、 100kg以上級 石森宏一（大阪・大体大）

《成年グレコローマン優勝者》 48kg級 佐々木文和（島根・県教委）、 52kg級 宮原厚次（埼玉・自衛隊）、 57kg級 柏木究（徳島・国府養護教）、 62kg級 長内清一（青森・三八教育事務所）、 68kg級 山口勝之（和歌山・県教委）、 74kg級 谷一郎（群馬・大田工高教）、 82kg級 伊沢厚（東京・警視庁）、 90kg級 佐藤貞雄（山口・くらしげ）、 100kg級 藤田芳弘（和歌山・和歌山北高教）、 100kg以上級 石井信也（神奈川・中原中教）

《少年フリースタイル優勝者》 48kg級 山下浩（茨城・霞ヶ浦）、 52kg級 下沢明夫（青森・光星学院）、 56kg級 森下敏清（茨城・霞ヶ浦）、 60kg級 斎藤新治（青森・光星学院）、 65kg級 赤石光生（青森・光星学院）、 70kg級 坂野下喜三（青森・光星学院）、 75kg級 伊藤敦（北海道・岩見沢農）、 81kg級 堅山博文（鹿児島・鹿児島商工）、 87kg級 山本哲也（和歌山・新宮）、 87kg以上級 浅井功（兵庫・神戸西）

《少年グレコローマン優勝者》 48kg級 藤波俊一（三重・桑名工）、 52kg級 黒飛健（静岡・修善寺工）、 56kg級 渡辺専一（秋田・秋田西）、 60kg級 川島輝己（群馬・館林）、 65kg級 有延伸一（福岡・築上西）、 70kg級 長谷川 幸生（千葉・銚子商）、 75kg級 奈良岡豊（青森・光星学院）、 81kg級 武藤光一（岐阜・岐阜南工）、 87kg級 呑香竜二（青森・光星学院）、 87kg以上級 室家伸行（和歌山・和歌山北）

東日本学生グレコローマン選手権（10月17日、東京・青少年総合センター） = 決勝成績

日体大 [6 - 3] 専大

全日本大学選手権（11月2～3日、大阪・大阪府立体育会館）

《優勝者》 48kg 級 小林孝至(日大)、 52kg 級 佐藤満(日体大)、 57kg 級 井上智明(国士舘大)、 62kg 級 五位塚悟(大東大)、 68kg 級 上村政和(日大)、 74kg 級 樋口直巳(日体大)、 82kg 級 福辺雅彦(日体大)、 90kg 級 東出徹(日体大)、 90kg 級以上 本田多聞(日大)

《大学対抗得点》[1] 日体大(6年連続7度目)、[2] 日大、[3] 専大

東日本学生秋季新人戦(11月25~27日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 高地伸夫(拓大)、 52kg 級 塩本顕三(東洋大)、 57kg 級 上島一敏(国士舘大)、 62kg 級 西真太郎(日体大)、 68kg 級 森巧(国士舘大)、 74kg 級 湯浅邦茂(日体大)、 82kg 級 松井浩幸(東農大)、 90kg 級 水橋徹(国士舘大)、 90kg 以上級 大川浩一(日大)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 高地伸夫(拓大)、 52kg 級 綾井俊行(専大)、 57kg 級 上島一敏(国士舘大)、 62kg 級 芦野茂美(日体大)、 68kg 級 森巧(国士舘大)、 74kg 級 平山宣伸(日体大)、 82kg 級 湯浅邦茂(日体大)、 90kg 級 水橋徹(国士舘大)、 90kg 以上級 本田多聞(日大)

西日本学生秋季リーグ戦(11月26~28日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1] 福岡大(2季連続11度目)、[2] 徳山大、[3] 同志社大、[4] 近大、[5] 大体大、[6] 名商大